

## 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会交流会を開催

全国訪問看護事業協会主催の都道府県訪問看護ステーション連絡協議会交流会が、6月19日東京品川の会場で開催された。各県の訪問看護ステーション連絡協議会関係者、当協会役員ら約60人が参加した。

新津ふみ子監事を司会に、尾寄新平会長の挨拶後、高砂裕子常務理事が、「令和2年度診療報酬改定に関する要望書の提出」「訪問看護師人材養成研修会」「医師による遠隔での死亡診断をサポートする看護師を対象とした研修会～情報通信機器（ICT）を利用した死亡診断等ガイドラインに基づく研修」「訪問看護師が利用者・家族から受ける暴力に関する調査研究事業」「外国人利用者および駐車規制について」「アンケート結果」について報告。また、清崎由美子事務局長が「クレームサポート補償特約」について情報提供した。その後のブロック会議は、6つのブロックで2つのテーマの話し合いを行った。

1つめのテーマは、「実践報告を受けて、各都道府県訪問看護ステーション連絡協議会におけるガイドラインを活用した質の向上のための取り組み」で、会議に先立ち沖縄県看護協会の志茂ふじみ氏が「訪問看護ステーション連絡協議会における事業所自己評価のガイドラインを活用した質向上の取り組み」と題して実践報告を行った。話し合いを行った3ブロックの代表が、次のように報告した。

**[北海道・東北ブロック]** 訪問看護ハイレベル研修を受けたメンバーによる研修は行われているが、事業所自己評価のガイドラインは紹介程度にとどまっている。協議会での評価結果の集約・集計は、事務作業が難しいという課題もある。

**[関東甲信越ブロック]** 事業所自己評価はその意味を考えることが重要。所長会などで評価の読み合わせをするなどしてその意義を確認することで、事業所自己評価のガイドラインが理解され評価への興味も高まるのではないかと。

**[東海・北陸ブロック]** 利用者の満足度調査をもとにケアマネジャーや医療機関に対して調査を行っている地域もある。訪問看護ステーションが調査票を配布し、協議会が回収したことで客観性が保たれた。そのデータを県などの会議で提出し、提言につなげているケースもあった。

2つめ目は、アンケート調査であげられた議題から

ブロックごとにテーマを選んで話し合いが行われ、3ブロックの代表が次のように報告した。

**[近畿ブロック]** 人材育成、研修のあり方について話し合った。特に、大阪は研修を新人、中堅、ハイレベルとシステム化している。さらに協議会、病院、大学、看護協会の4団体で話し合い、研修が重ならないよう調整している。

**[中国・四国ブロック]** ステーション間の連携と災害時対応・防災対応について話し合った。災害対策では、マニュアルはあるが、発災時に実行できるかが課題である。災害時は看護師自身も被災者になるという点で、自助と併せて公助の視点で今後の対策を講じていく必要がある。

**[九州・沖縄ブロック]** 連絡協議会の組織力強化について話し合った。会員に還元できる仕組み作り等の話が出たが、やはり情報を共有しステーションの質のレベルを上げていくことが住民を守り、支え合いに強い地域づくりにつながる。

発表後、上野副会長が閉会の挨拶を述べ、散会した。

### Nursing Nowキャンペーンのお知らせ

#### 全国訪問看護事業協会

Nursing Nowは看護職への関心を深め、地位を向上することを目的として世界保健機関（WHO）、国際看護師協会（ICN）をパートナーに、世界的に展開されているキャンペーンです。全国訪問看護事業協会と日本訪問看護財団はNursing Nowに参加し、キャンペーンの趣旨に沿った活動を共同で展開します。

Nursing Nowは私たち看護師自身が、看護についてアピールするキャンペーンです。訪問看護ステーションでも、地域で訪問看護の存在や役割・効果などを積極的にアピールしていくことが、Nursing Nowの活動につながります。

訪問看護に携わる皆様には、Nursing Nowの趣旨をご理解いただき、地域で訪問看護のアピールなど、積極的な活動をお願いします。